

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

ドル/円相場のトレード戦略

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み 110 円台を回復する動きとなっています。

6 月の FOMC では本年 4 回の利上げ期待を高める内容となっており、また初の米朝首脳会談を無事こなしたことでアジアの地政学リスクも低下しており、ドル/円は底堅い動きが予想されます。もともと、米国を中心とした貿易摩擦の激化はドルの上昇抑制要因であり、この点を考慮すると年後半もレンジ相場が継続するという見方を大幅に変更する必要はないものと考えられます。

■短期展望

先週は、111 円を挟んで方向間のない動きとなりました。

週初は、111 円前半でスタートした後、北朝鮮の非核化協議の停滞を理由にトランプ大統領が米国務長官の訪朝見送りを指示したことなどを受けてドルは軟化しましたが、その後にクロス円の反発などにつられてドル/円も反発し 111 円 83 銭の高値をつける動きとなりました。

週末にかけては「トランプ大統領が来週にも 2000 億ドルの対中関税発動を指示」との報道を受けて通商問題への警戒感が高まり、110 円 69 銭の安値をつけたものの、米国の三連休を控えドルのショートカバーで 111 円ちょうど近辺まで値を戻して週を越えました。

今週も、先週同様の 111 円を中心とした方向感の出にくい展開が予想されます。

米国の通商問題は依然としてドルの上値を抑える要因であるものの、米国の好調な経済を背景にした利上げ継続観測は根強く、ドルの下支え要因となるでしょう。

週初は米国が休日であり、また週末に米雇用統計を控えていることもあり、積極的な取引は見送られる可能性が高いと思われることから 110 円～112 円でのレンジ取引が継続されそうです。